



健康プラザ

医療法人将優会 クリニックうしたに
理事長・院長 牛谷義秀

口腔カンジダ症・食道カンジダ症

「のどや胸がつかえた感じがする」「舌がしみる」「味がしない」といった症状で来院される人の中に、「口腔カンジダ症」や「食道カンジダ症」の患者さんが増えています。カンジダというカビはもともと身体の中じょうざいきんにいる常在菌ですが、体力が低下したり、免疫力が低下した状態では増殖してさまざまな症状を起こします。

1. 口腔カンジダ症、食道カンジダ症とその原因

口腔カンジダ症や食道カンジダ症は、カンジダ・アルビカンスというカビの一種が口や食道の中で増殖して多彩な症状を引き起こす病気です。カンジダはもともと口腔内には常在しており、私たちが健康な時は悪い影響は起こしません。これまで、年寄りや身体の抵抗力の低下が感染の原因となりやすいと考えられてきましたが、長期間にわたっての抗生物質使用から口腔内常在菌のバランスが崩れて起こる菌交代現象きんこうたいげんしょうのほか、白血病などの血液の病気や悪性腫瘍、エイズなどの免疫不全症、結核や糖尿病などの病気にかかっている人や抗がん剤、ステロイド、免疫抑制剤などの投与を受けている人などで生じるほか、口腔や義歯の清掃不良、唾液分泌低下（ドライマウス）なども関連します。多くは高齢者や幼児に起こりますが、エイズなどでは若い人にもみられることがあります。また口腔カンジダ症から、口腔内にとどまらず食道カンジダ症へと発展する背景には、多くの場合、食道でのカンジダの増殖を押さえられないほどの免疫力の低下が見られます。身体の免疫が低下すると増殖して身体に悪影響を及ぼすようになります。

2. 症状（表1）

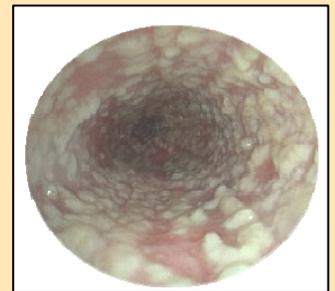
口腔カンジダ症の代表的な自覚症状として舌や口の中の粘膜の痛みと味覚異常が見られます。痛みは「食べ物がしみる」、「ひりひりする」などのほか、焼けるように感じるケースもあります。味覚異常では、「味が分かりにくい」、「いつも苦く感じる」という症状が代表的です。食道カンジダ症では胸焼け、胸の痛み、飲み込む際の痛みなどが主な症状です。

この病気には、（1）粘膜の表面に白くて薄い膜ができる「偽膜性カンジダ症」、（2）粘膜の表面が厚くなる「肥厚性カンジダ症」、（3）粘膜の表面が萎縮いしゆくして赤くなる「萎縮性（紅斑性）カンジダ症こうはんせい」の3つのタイプがあります。

カンジダ症の分類	特 徴
(1) 偽膜性カンジダ症	<ul style="list-style-type: none"> ● 口腔内のカンジダ症でもっとも多く乳児や高齢者に発症しやすい ● 初期では無症状の乳白色苔状の斑点が粘膜にみられ、それが癒合して白いミルク膜のように付着した状態（白苔）
(2) 肥厚性カンジダ症	<ul style="list-style-type: none"> ● 白い偽膜は固くなり、明らかな白斑となり、カンジダ性白板症と呼ばれるようになる。抗真菌剤に対する抵抗性が強くなり、簡単にぬぐい取ることが難しくなる
(3) 萎縮性（紅斑性）カンジダ症	<ul style="list-style-type: none"> ● 抗生物質の長期使用による菌交代現象で、口蓋粘膜の総義歯接触面に生じやすい ● 飲食時に舌にヒリヒリとした痛みがあり、両側の口角が切れたり、苦味や違和感を感じるなどの症状が出る

3. 診断

白苔^{はくたい}を生じる偽膜性カンジダ症は、診察により容易に診断できますが、舌上に白苔がなく粘膜が発赤^{ほっせき}して萎縮する萎縮性（紅斑性）カンジダ症は、鉄や亜鉛、ビタミンB12などの欠乏による舌炎^{ぜつえん}との鑑別が必要となることがあります。また、内視鏡検査で食道に白い点状のものを確認すると食道カンジダ症が疑われますが、この白い点状の小隆起を採取し、カンジダ・アルビカンスという真菌の証明、病理組織学的検査による仮性菌糸および酵母様の菌体の観察で診断が確定します。



食道カンジダ症

なお、口腔内・食道の悪性腫瘍、白板症、乳頭腫症、アフタ性口内炎などとの鑑別診断が必要となってきます。

4. 治療

口腔カンジダ症は、口腔内の症状とカンジダ菌の培養で診断がつけば、抗真菌剤である「うがい薬、塗り薬、内服薬」を使用します。また、食事で食道がしみたり、胸やけなどの症状がみられる食道カンジダ症で日常生活に支障が出るような場合には、抗真菌薬を1週間ほど内服します。早ければ服用後、数日で症状は改善します。カンジダ症が起こる原因となった病気があれば、その治療を並行して実施します。抗真菌剤が内服できない場合は注射を行うことがあります。

まずは小まめにうがいをして、日頃から舌を主体とした口腔粘膜の清掃を心がけ、口の中を清潔に保つことが大切です。また義歯が汚れていたり、傷ついたりするとカンジダが増殖しやすいので義歯を清潔にすることも重要であり、さらに口腔乾燥がある場合には唾液分泌や口腔の保湿を促す口腔ケアも重要となってきます。

5. まとめ

近年、抗生物質の普及や栄養改善などにもとまない、細菌感染症は減少したものの、その反面、口腔カンジダ症に代表される真菌症が増加傾向にあるといわれています。全身状態が悪い場合は、口腔カンジダ症を放置することで肺炎などの深部感染症を起こす危険が急激に高まるため、早めの治療が肝心です。

カンジダが影響する口腔の卑近な異常に、「舌疼痛」、「味覚異常」なども挙げられます。舌疼痛・味覚異常例の多くにカンジダが関与しているという報告もあり、舌疼痛や味覚異常が認められたときにはカンジダ症も視野に入れるべきです。

また、カンジダ症は疲れて体力が落ちたときにしやすいので、十分な休養をとることが大切です。

